

他者の考えを認めながら、自分の考えを豊かに表現する生徒の育成 ～新聞活用を通じた実践から～

阿賀野市立笹神中学校

1 学校の概要

当校は、阿賀野川の北部に位置し、五頭山を背景に64の集落が点在する純農村地帯である。有機栽培を主とする農業は、多方面から注目され、「ゆうきの里」として大規模な稲作農業が展開されている。また、出湯、今板、村杉の温泉地や、ゴルフ場などを擁し、観光にも力を入れている。校区には2つの小学校がある。教育に対する地域住民の関心は高く、学校教育に対する協力や支援を惜しまない。PTA活動も活発である。行政も学校施設の充実に積極的に取り組み、恵まれた施設、環境を有している。

2 NIE実践のねらい

(1) 生徒の実態から

どの教科においても、学習規律を守り落ち着いた態度で意欲的に学習に取り組む生徒が多い。また、学校行事等の集団活動では、協力、団結して活動する姿が見られる。半面、自ら課題を発見する力や、他者の考えを受けとめながら検討・協議する中で課題をよりよく解決し、発信する力に弱さが見られる。そこで、自分を取り巻く人的物的な環境への興味・関心を高め、表現力を育むために、総合的な学習の時間を中核にしてNIEに取り組むこととした。新聞を学習のツールとして定着させ、活用を進めることで、自分を取り巻く社会的な問題への視野を広げ、他者との交流を通して考える力、自分の考えを表現し発信する力を高めながら、よりよく生きるための資質・能力の育成を目指す。

(2) 研究主題とNIE実践の関連

研究を進めるため、「豊かに表現する生徒の姿」として以下を設定した。

- ① 文章や他者との交流を通して伝えたい内容を理解する。
- ② 自分の考えをもつ。その後、他者との関りを通して改めて自分の考えをより具体的にする。
- ③ 自分の考えを明瞭な文章で表現する。
- ④ 必要に応じて、資料・データを視覚化して表現する。

総合的な学習の時間は、様々な場面で新聞活用を工夫できるうえ、他の教育活動とリンクしやすい時間である。上記の姿を目指し、総合的な学習の時間を中軸として教育活動全体で取り組む。

3 本年度実践の概要

(1) 組織づくりと業務の効率化

- ① 中核となって推進するチーム（学習指導・道徳教育・総合学習・特別活動・キャリア教育・研究推進の主任・教頭）を組織した。
- ② 職員室内のグーグル・クラスルームを活用して協議・データのやりとりをする。全職員で新聞検索システムを積極的に用いた。

(2) N I E の理解を深める職員研修の実施（7月）

新聞を活用した教育の理解を深めるための研修として、新発田市立第一中学校 海老名崇様をお招きしてN I E教育を全校体制で取り組むためのポイントと研究主題とN I E教育を関連付けるための具体的な改善点を御指導いただいた。



研修会の様子

(3) 授業等での新聞活用

- ① 講師（新潟日報社 読者推進室 参与 木村 隆 様）を要請し、新聞の見方・読み方や新聞作成の方法に関する出前授業を行った。（学年毎に計3回実施）



(3)①講師による各学年出前授業の様子

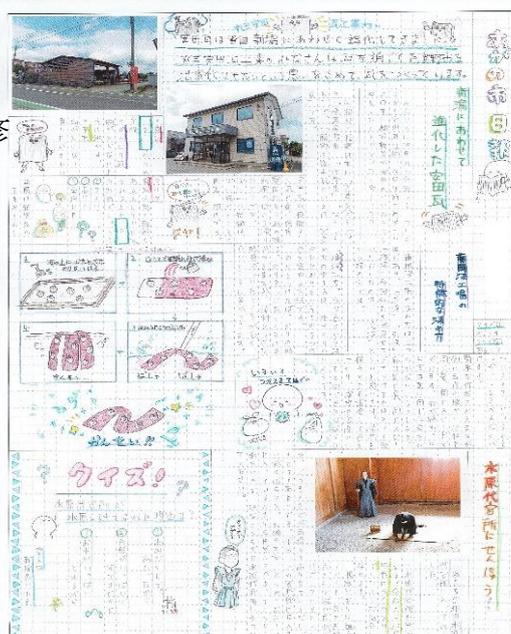
- ② 教科等の年間指導計画に年2回新聞活用の学習を位置づけ実践した。2(2)

①～④の視点を盛り込んだ授業改善研修を行った。

- ④ 新聞記事を活用した生徒会活動を進めた。

- ⑤ 総合的な学習の時間を中心に以下の学習の流れを取り入れた。

- ア 題材毎に新聞記事を用いる。
- イ テーマに沿って自分の調べたことや考察を根拠に基づき示す。
- ウ 交流を通して考えを深める。
- エ 画像等を効果的に使用しながら、自分の考えやその変容を新聞にまとめる。



(3)④総合学習で作成した新聞

(4) 新聞に親しむ環境づくりと意識啓発

- ① 図書館脇に新聞コーナーを設置した。
- ② 国語科授業で取り組んだ「新聞記事ポップ」作品を紹介した。
- ③ 朝読書で新聞コラムを、月1回程度全校一斉にタブレット配信した。生徒は、コラムを読み感想を書く活動を続けた。
- ④ 新潟日報「きらきらキラリ」へ投稿した。



(4)②新聞記事ポップ紹介

(5) 総合的な学習の時間と新聞活用

阿賀野市学校教育の重点を受け、ふるさとへの愛着や誇りをもつ人づくりを目指し、キャリア教育を中核に取り組んできた。テーマ「共生」を掲げ生徒が地域の中で他者と共に生きるために何をすべきか考え、実践する力を育ててきた。新聞は、地域に関する知識を吸収し実践力に変える効果的な教材と捉え活用してきた。

	学習テーマ	新聞活用場面
1年	「郷土を知る」 ～地域の自然と人々から学ぶ～	「新聞」から阿賀野市の今を知りそこに生きる人たちと交流しながら自然、産業、人を知り、その良さと問題意識を持つ。 関連項目 学級活動「自分を知る」 道徳科 「郷土愛」「勤労」
2年	「郷土と比較する」 ～京都奈良の人・歴史・文化から学ぶ～	「新聞」から関西の歴史や文化などを調べ人と関わる中で、郷土と比較をしながら、未来の阿賀野市を考える。 関連項目 学級活動「職業の世界」「生き方を考える」 道徳科 「向上心」「個性の伸長」 我が国の伝統と文化 の尊重 「社会への貢献」
3年	「共に生きる」 ～未来の自分に向けて生き方を考える～	「新聞」から様々な人たちの姿を学び、自分の将来について必要な知識やスキルに気づき、郷土に貢献できる生き方を考える。 関連項目 学級活動「進路の選択」 道徳科「よりよく生きる」

4 実践例

(1) テーマ「共生」に基づいた総合的な学習の時間の実践例

① 指導計画（11月28日中間発表会公開授業場面は太ゴシック）

ア 第1学年 職業調べ

次	○学習のねらい（時数）	・主な活動内容
1	○自分の将来を考えることの大切さに気付く。 ・10年後の自分を想像する。	（3時間） ・「学ぶ目的」「働く目的」について資料を読み、いろいろな人の経験から、自分なりの考えをもつ。
2	○様々な職業があることを知り、深く調べる意欲をもつ。	（3時間） ・夢サポート動画、新潟県の仕事人動画を視聴し、感想や気付いたことを書き出す。
3	○職業について調べ、新聞にする。	（9時間） ・新聞づくりの手順を思い出す。（リード、見出し、頭と腹、逆三角形スタイルなど） ・調べる項目を検討する。 ・インターネットサイトや図書室の書籍などで、分担した職業について調べてメモする。 ・リード文、見出しなどを考え、記事をレイアウトする。 ・新聞にまとめる。
公開授業 2 / 9		

イ 第2学年 阿賀野市と他地域と比べて

次	○学習のねらい（時数）	・主な活動内容
1	○新聞をつくるための基礎・基本を習得する。	（1時間） ・外部講師による新聞づくりのための講座を聞く。 ・実際の新聞からリード文を探し出す。
2	○新聞づくり講座を活かして、相手が読みやすい組み立て、文章の新聞をつくる。	（4時間） ・体験内容や質問内容を見やすいように記事にまとめる。
3	○下級生がわかりやすい発表を通して、職場体験で学んだこと の理解を深める。	（2時間） ・プレゼンテーションソフトを使ってタブレットでスライドを作る。
	○下級生がわかりやすい発表を通して、職場体験で学んだこと	

4	<p>の理解を深める。 (2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれ、1年生に向け学習成果をプレゼンする。
5	<p>○阿賀野市での職場体験をもとに、他地域の職業人から新たな価値を見出す。 (1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事をもとにして、「働くことへの新たな価値」や「阿賀野市の課題」について自分の考えをまとめる。
6	<p>○ワールドカフェ形式で、意見を交わし合うことで、これからの阿賀野市について考える。 (1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時での自分の考えを他者に伝え、他者の考えも聞く。 ・“未来の阿賀野市”の姿をグループごとにまとめる。 <p>公開授業 1 / 1</p>

ウ 第3学年 自分史

次	○学習のねらい (時数) ・主な活動内容
1	<p>○将来の自分 (20年後の自分) をイメージする。 (2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「若者の離職」「若者の就職の実態」等について書かれた新聞記事を読む。 ・記事を読んで考えたことや今後意識していきたいことを原稿用紙に書く。
2	<p>○「過去」「今」「将来」の3観点から自分を見つめ直し、自己分析をする。 (1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分史新聞を作成するためのメモを作成する。
3	<p>○前時の自己分析を基に、「過去—今—将来」の自分について表現する。 (2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分史新聞を作成する。
4	<p>○作成中の自分史新聞がよりよいものになるように、練り上げる。 (1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでシェアリングを行い、互いによいところを伝えたり、アドバイスを送ったりする <p>公開授業 1 / 1</p>

② 公開授業参観者の意見から (抜粋)

ア 1学年

- ・ダイヤモンドランキングによる交流で学びに深みが出た。
- ・新聞記事を生かすのであれば、「どの記事に



共感できるか」や「再度記事を読み直してみる」等の手立ても考えられる。

- ・「必ず調べる項目」と「自分独自の視点（個人の価値観）」を明確にしながら学習を進めた方が、自分はどう生きるのかを考えられたのではないか。

イ 2 学年

- ・職場体験につながった記事だけにならず、体験とリンクして自分の生活、未来の阿賀野市につなげて考えていたのが良かった。
- ・広げすぎず、何をゴールにするのかを明確に示しても良かった。
- ・修学旅行後に、阿賀野市へどう返すのか自分の進路に関連付けて考えさせるとよい。地域貢献活動につなげることもできる。



ウ 3 学年

- ・シェアリングしながら自分史を作成していたが、自分の悩みを伝えたり、肯定的なアドバイスがでており良かった。作成した自分史を客観的に見ることができた。
- ・自分史を過去・現在・未来の視点で作成してほしかった。新聞構成に工夫が必要である。
- ・良い新聞のポイントを示し、ゴールを設定した際に、ポイントを明確に示すと良い。



③ 御指導（NIE アドバイザー 新発田市立第一中学校 海老名崇様）

ア 1 学年

- ・職業を選ぶ際の優先順位（内容、資格、適性、収入等）を考えさせることでやりがいや苦勞を知り、自分の考えをもつことができる。
- ・職業新聞作成は、客観的かつ分かりやすく職業について伝えるだけでなく、自分の生き方につながる内容にしなければならない。
- ・郷土の新聞記事を生かしたり、郷土についてや2 学年の職場体験につながったりするものであってほしい。

イ 2 学年

- ・職場体験から見つけた働く意義と、新聞から見つけた新たな価値から、魅力ある未来の阿賀野市を考えられると良い。
- ・魅力ある阿賀野市を考える際は、拡散しやすいため焦点化させる。
- ・今後実施の修学旅行や自分史作成と関連付けて指導計画を立てる。

ウ 3 学年

- ・シェアリングを通じてより良い自分史をつくる。そのためにどの部分について話し合うのか明確にすることが大切である。

- ・ 20年後の自分を想像するには、20年後の社会をイメージできるようにしておかなければならない。
- ・ 自分史を作成する際に、「見出し」「文章」「未来・今・過去」などの部分に焦点化するのか明確にしなければならない。

(2) 生徒会主催いじめ見逃しゼロの取組（6月）

① ねらい

- ア 全校体制でいじめを許さない、見逃さない意識をもたせる。
- イ 異学年との交流を通して、人と接する上での自分の「視点」や「行動」を振り返り、いじめを生まない、見逃さない行動について考えを深め、実践する態度を身に付ける。

② 学習の流れ

- ア いじめに関する全校アンケート実施（実態調査・意識調査）

- イ 中川翔子さんのいじめに関する新聞記事を読み、「感じたこと」「考えたこと」「これから意識していきたいこと」を記入する。

- ウ 生徒会よりいじめの実態や意識（アンケート結果）を報告する。

- エ 学生時代にいじめを受けた人の新聞記事（上記とは別のもの）を読み、いじめがもたらす悪影響についてグループ協議（異学年編成）をする。

- オ 学級をオンラインで結び、インタビュー形式で協議結果を報告し合う。

- カ 報告を受けて笹神中学校をどのような学校にしたいか、自分たちは何ができるのか、そのために自分は何をするかをグループで話し合いまとめる。

- キ オンラインで結びながらインタビュー形式で全体発表をする。

- ク 生徒会の総括後、自教室に戻り、各自が「笹中をいじめ見逃しゼロの学校にするために」のテーマで決意文を書く。

③ 活動後の生徒の作文から

- ア 自分が大切にしていることや個性をいじられたら、自信が持てなくなる。一度傷ついたら一生心の傷として残る。笹神中学校は、いじめをする人がいない、いじめられている人がいたら救う学校にしたいです。そのために自分は、いじめを止める勇気を持ちたいし、もし自分が弱くて止められないときでも、いじめられている人にそっと寄り添ってあげたり共感したりできるようになりたいです。他の人の意見で、普段話さない人に積極的に話しかけることで相手も安心できるということにも気づきました。



イ 笹神中学校でいじめを受けている人がいたら、相談にのってもらえる学校にしたいです。新聞記事には、福島県原発の事故で新潟に避難してきた人が、「汚染されている」などと言われたいじめが、新潟で起きていることにびっくりしました。とてもいけないことだと思いました。いろいろないじめがあるなら、自分からその人の話を聞いてあげることが大切だと思いました。僕は、いじめを注意できる人間になりたいです。

5 成果と課題

(1) アンケート結果（カッコ内は肯定的評価）

- ① 深く考えたり、考えたことを書けるようになってきたか。(73%)
- ② 自分の良いところや特技について考える機会が増えたか。(73%)
- ③ 自分の生き方を考える機会が増えたか。(72%)
- ④ 働くことや働く人について更に深く学習したいか。(80%)
- ⑤ 新聞についてどのようなイメージを持っているか。(一部抜粋)

ア 文字が多く読むのが大変 イ テレビで分からないことを知れる。

ウ SNSを使わず正しい情報を確認できる。

エ 情報発信だけでなく、考えを深めたり広めたりできる。

オ 新聞社の考えによって見出しや伝え方が変わってくる。

(2) 生徒の学習の様子

新聞を通した生徒の表現活動の様子から、「自分の考えをもち」「時間をかけて丁寧に書く」様子が多く見られるようになった。書くことが苦手な生徒もいるが、あきらめずに自分の思いを書こうとする態度が見られている。新聞づくりも、自分の考え方や読み手を考えた書き方をする生徒が増えてきた。

自分の好きな事を他人に悪く言われるのはすごく嫌いなことだ
分かった。自分のことを他人にせめて続けたい。死にまで考えて
はう。それほど言葉で傷つけられることは、つらいことと感じ
ました。それと逆に、自分ががんばっていることを他人にほめられる
うれしなることもあると分かりました。言葉は他人を傷つけ自分の
好きなことができなくなってしまうと、相手の言葉で自分の好きな
ほめられて、生き方を変わるもいる。それほど言葉というものは、
相手の人生を変えてしまうほどの、重みがあると感じた。
この記事を読んで、相手にかかる言葉が間違っていないか今まで
以上に意識はうと思った。いつも普段かけている言葉が
相手の考えに影響しているかを考え、行動していきたいと思
いました。自分が他の人のことについて自分がやっていることが間
違っていないと、思っている人が増えたらいいなと思いました。

(3) 成果と課題

授業改善が大きな課題である当校にとって、NIE教育の実践が全校体制で取り組むために大変良い機会となった。新聞活用場面だけではなく、他の学習場面でも生徒がじっくり考えながら書く習慣が身につけてきた。また、対話する力やコミュニケーションの力も身につけてきている。自分の考えを持つことで自信をもってグループ学習に参加できるようになったからだと分析している。

11月28日の中間発表会で、指導者の海老名様からは、

- ① 新聞作成の良さである、体験や情報・思考を整理・収束・表現等を各生徒の新聞にあらわれるようにすること。
- ② 新聞記事使用のねらい（課題設定・情報収集・分析・表現等）を明らか

にした学習過程にすること。

- ③ 総合的な学習の時間では、地域の中で他者と生きていくために、自分は何ができるか、すべきかを地域学習を通して考える指導計画にする。ことを御指導いただいた。指導計画の改善を進めていきたい。(丸山 温)